



まちライブラリーに関する情報はこちらから

<https://machi-library.org/>

まちライブラリー通信 vol. 30 / 2024 新年号

発行：一般社団法人まちライブラリー

住所：〒540-0037 大阪府大阪市中央区平野町 2-1-2 アイエスビル 3 階



まちライブラリー通信

VOL. 30

新年号

まちライブラリー総数

1096

2023年12月20日現在

New! まちライブラリーの紹介

NO. 1022 (大阪府 高石市)

高石市立図書館分館

思いの詰まった寄贈本をきっかけに、みんながつながっていく。そんな素敵なネットワークを紡いでいきましょう!

- Web: <https://www.lics-saas.nexs-service.jp/takaishi/index.html>
- オーナー: 高石市立図書館分館

NO. 1037 (神奈川県 横須賀市)

Garage Yokosuka West (ガレージ文庫横須賀西)

横須賀の西海岸にある小さなガレージに、明治から昭和にかけての海軍や外交を中心とした歴史書、郷土史に加え、クラシックなオートバイ関連の資料などを収蔵しています。原則、事前予約制です。

- Web: <https://garageyokosukawest.wixsite.com/garage-yokosuka-west>
- オーナー: 平岡博彦

NO. 1038 (大阪府 大阪市東成区)

ホンのジカン

本を片手にひとりの時間を楽しむお店です。寄付していただいた本を読んだり、メッセージや感想を書き合ったりして本を通じたコミュニケーションが生まれると嬉しいなあと思っています。

- Web: <https://honnojikan.wixsite.com/bookcafe>
- オーナー: ホンのジカン

NO. 1045 (富山県 魚津市)

めぐるほんや

大人が絵本で癒やされたり、勇気づけられたり、感情を出せたり、安心できたり。大人こそ絵本を♡という思い込めた世界を味わってください。不定期でイベントやおはなし会を開催します。

- Instagram: [meguru_honya1107](https://www.instagram.com/meguru_honya1107)
- オーナー: 廣瀬めぐみ

NO. 1049 (岡山県 倉敷市)

まちライブラリー@ラガルトプラス倉敷

美観地区から徒歩1分。アートギャラリー内にある、クリエイター精神を刺激するアットホームなライブラリーです。国内外の画集や写真集、絵本、美術史資料などアート関連の本や雑誌を中心に揃えています。

- Instagram: [lagartoplus](https://www.instagram.com/lagartoplus)
- オーナー: ラガルトプラス

NO. 1051 (島根県 大田市)

石見銀山まちを楽しくするライブラリー

世界遺産石見銀山のまちにある島根県立大学の学生が、地域の方や観光客のみなさんと地域づくりを考え、実践しながらライブラリーを運営しています。一緒に本と出会い、人と出会い、地域の魅力に出会ってみませんか?

- Instagram: [ginzan_cafe.library](https://www.instagram.com/ginzan_cafe.library)
- オーナー: 島根県立大学

NO. 1055 (兵庫県 姫路市)

まちライブラリー@緑側ベース

民家をベースに、子どもも大人もほっこりできる活動基地です。昭和の緑側のように、子どもにも大人にも気軽に立ち寄ってもらえるまちライブラリーを目指しています。

- Instagram: [library.engawabase](https://www.instagram.com/library.engawabase)
- オーナー: 緑側ベース管理人

NO. 1056 (大阪府 岬町)

岬まちライブラリー

本を通して人々とながら、知識の向上に役立つと思い、まちづくり交流館内でまちライブラリーを始めました。交流館ではスタートアップを目的とした貸館事業を行っており、町内外問わず気軽に人々が集まる場所です。

- Instagram: [misakinohitohuku](https://www.instagram.com/misakinohitohuku)
- オーナー: 岬町

NO. 1062 (千葉県 市原市)

まちライブラリー@わかみや

千葉県市原市若宮団地のテラスハウスをリノベーションしてできたカフェ「On Re.cafe」内に小さな図書館を開設しました。カフェで読んでも借りて帰ってもOKです。本との出会いを自由に楽しんでください。

- Instagram: [on.re.cafe](https://www.instagram.com/on.re.cafe)
- オーナー: 鈴木宏子

NO. 1066 (北海道 千歳市)

千歳市役所@まちライブラリーりんご箱プロジェクト

木製のりんご箱を本棚にして、千歳市中心部に一斉に並べるプロジェクトを2023年に行い、本には「人と人」、「人と地域」をつなぐ力があると感じました。市役所では、環境課など各課のりんご箱本棚を展示しています。

- オーナー: 千歳市役所

NO. 1067 (神奈川県 横浜市港南区)

子どもの図書館あいすちゃん

一般家庭のリビングを会員制で開放して、近所の子どもたちに本を貸し出したり、お話を聞かせたりしています。不登校の子のための日もあります。子どもたちの安心、安全な居場所になることを願っています。

- Instagram: [yuuka_waku_waku_ehon](https://www.instagram.com/yuuka_waku_waku_ehon)
- オーナー: 大谷佑香

NO. 1068 (大阪府 大阪市西淀川区)

西淀川・淀川健康友の会柏花センター

地域の皆さんと健康を守り、安心して住み続けられるまちづくりをモットーに、元診療所の建物を活用して百歳体操や健康体操などのイベントを開いています。地域の方から本の寄付を頂いて運営しています。お気軽にどうぞ。

- Facebook: 西淀川・淀川健康友の会
- オーナー: 西淀川・淀川健康友の会

NO. 1069 (北海道 長沼町)

七七文庫@りんご箱プロジェクト

長沼町でりんご箱を使った移動文庫をしています。昭和7年7月生まれの自分の父、夫の父への尊敬と愛を込めて『七七文庫』と名付けました。イベントに出かけて、開館したいと思います。

- オーナー: 池田博子

NO. 1070 (北海道 長沼町)

おやこぶんこはんぶんこ@りんご箱プロジェクト

りんご箱を使って、自分と父が半分ずつ本を紹介する文庫です。イベント時に開館します。

- オーナー: 池田修

NO. 1073 (大阪府 豊中市)

ななーるカフェ

認知症対応型グループホームの中に、本棚のある地域コミュニティスペースをつくりました。駄菓子屋さんや街の保健室、ワークショップなど関わる人の得意を活かした活動を支える居場所にもなっています。

- Web: <https://nana-r.com/>
- オーナー: 鈴木菜穂

NO. 1075 (北海道 長沼町)

トコトコ。文庫@りんご箱プロジェクト

絵本は子どもの物と思いませんか?大人も絵本から沢山の宝物を受け取って下さい。イベントの時に、りんご箱を利用した移動文庫を開館します。

- オーナー: 村上穂子

NO. 1076 (北海道 長沼町)

中年オヤジの田舎暮らしの本@りんご箱プロジェクト

歴史好きの中年オヤジが選んだ本を並べました。りんご箱を利用した移動文庫をやっています。イベントの時に開館します。

- オーナー: 平野俊一

NO. 1080 (京都府 京都市上京区)

きたのま:インクルーシブまちづくり図書館

京都・北野商店街で、困りごとのある方を真ん中にして取り残さない「インクルーシブまちづくり」の実現をめざすまちライブラリーです。社会福祉士・介護福祉士が常駐し、「福祉とまちづくりの相談会」を開催しています。

- Facebook: きたのま:インクルーシブまちづくり図書館
- オーナー: 株式会社くらしの伴走者 新山隆司



「個」が主役になれる社会を目指して 2月に新刊発売!

皆様、あけましておめでとうございます。

毎年、最初のまちライブラリー通信は、旧年の振り返りと、新しい年に起こる出来事を紹介しています。昨年は「まちライブラリー@MUFG PARK」(西東京市)が開館しました。6月末に開館して以来11月末で4万名以上の方が来館し、会員も1500名以上になりました。また3月には、全国のまちライブラリー累計登録数が1000件を超え、11月末で1094件になりました。多くの皆様にまちライブラリーの仲間になっていただき嬉しく存じます。

さて今年は、2月に拙著『まちライブラリーの研究—「個」が主役になれる社会的資本づくり』(仮)がみずす書房から刊行される予定です。この原稿を書いている段階では、鋭意校正中ですが、なんとか間に合うと思っています。今回は、この本について紹介します。

本書は、2020年3月に受理された私の博士論文「「まちライブラリー」を活用した地域の場づくりに関する研究:「個」の活動が活かされる社会への道程」をもとにしています。まちライブラリーの10年近い活動を研究し、仕上げたものでした。今回は、その副題に主眼を置きながら「個」が社会の主役になるにはどのような社会環境が必要で、個々の人はどのように振る舞えばいいかを私なりにまとめたものとなっています。

そもそも、まちライブラリーを始めたきっかけは、組織に翻弄された私が、個人の力で何ができるのか?という挑戦でした。「本で人とつながる」というお題目はありましたが、少し突き放した見方をすると組織の駒として生きた自分ではなく、生きた証を求める身勝手な行動だったようにも思います。ある意味で利己的な動機が、結果として周りの人に助けられて社会性がある活動に育ってきたのです。しかも、私だけがそのような利己的な動機を持っていたのではなく、1000カ所を超えるまちライブラリーの中で、私と同じように利己的な楽しみや課題に挑戦する中でこそ生き生きと活動が続いている人達がいることに気づきました。ここに至るまでの体験をデータやインタビューで記録し、それを考察することで「まちライブラリーの場とは何か?」「個々の人の活動が、社会的資本になりえるのか?」「その結果、個々の人は楽になれるのか?」といった問いに答えようと試みました。

第1章では、現代社会で息苦しさを感ずる背景を分析しながら、まちライブラリーが誕生するまでを記述し、特に目の前にあるミクロな視点が突破口になったことをお伝えしました。第2章では節目になったまちライブラリーを振り返っています。紆余曲折しながら誕生したISまちライブラリーにおける「本による自己紹介」、大阪府立大学にお

る蔵書ゼロ冊からスタートした「植本祭」、年間14万人を集めたもりのみやキューズモールにおける「本の磁力による日常的な集客力」など、大事な方法の発見につながったことを記しました。そして第3章では、データでまちライブラリーの広がりを確認するとともに施設別、用途別に広がりを見せる具体的な事例を挙げました。さらに第4章では、まちライブラリーの運営者、利用者へのアンケートデータをもとに俯瞰的に紹介し、続く第5章では運営者や利用者等へのインタビューを交えることで関係者の内面も理解してもらえるよう工夫しています。

第6章では、まちライブラリーの場とはどういうものかを教育論者の「居場所論」やレイ・オルデンバーグの「サードプレイス論」などを通して考察しました。第7章では、人の本質に迫る視点を持った哲人たちから私なりの気づきを整理しました。近代都市計画に反対したことで有名なジェイン・ジェイコブズから計画性の良について、資本主義でも社会主義でもない新たな道を模索した経済学者、宇沢弘文からは社会的共通資本の概念について考えさせられました。またイタリアの図書館コンサルタント、アントネッラ・アンニョリからは新たな場としての図書館像を、個々の人が自生的に社会活動に参画してもらうための「自己愛」と「共感」を基盤とする動機付けの大切さについて経済学の父、アダム・スミスから学びました。最後の第8章では、私なりに個人が生きやすい社会にするための提案をして本書を結んでいます。

私の力量不足で十分に伝わるかどうか不安はありますが、読者の中から新たなまちライブラリーの仲間や研究者が現れてくれることを切に期待しています。また、本は短期的に売れることが嬉しいのではなく、時空を超えて伝わることに意義があると思っています。次世代の人にも、共感を得て受け入れてもらえれば望外の喜びです。皆様のまちライブラリーにも置いていただき、いつかこの本を片手に皆様のまちライブラリーを訪れ、意見交換できる機会を楽しみにしております。

本の詳細は、みずす書房のHPをご覧ください。

<https://www.msz.co.jp/book/detail/09648/>

*磯井とこの本を片手に語り合いたい方!下記にご連絡ください。

勉強会やトークイベント、講演、ワークショップなど色々やりましょう!

2023年12月
まちライブラリー提唱者 磯井純充

MSJ00657@nifty.com

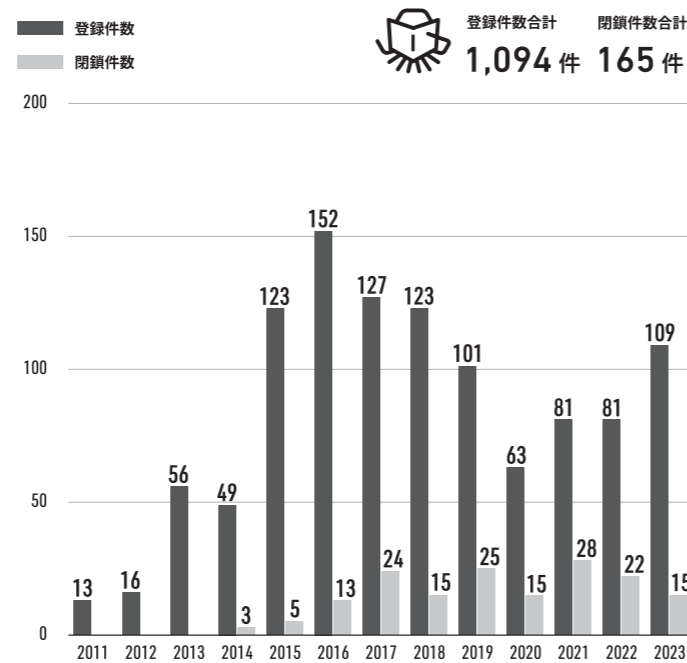
データで見る まちライブラリー

全国のまちライブラリーの登録数は2023年3月に1000件を突破し、11月末時点で1094件です。登録数の年ごとの推移や都道府県別の登録数、運営者などのデータを分析すると、まちライブラリーの特徴が浮かび上がってきました。また、一般社団法人まちライブラリーが運営を担っている4カ所の施設について活発な利用状況も公開します！

※数字は2023年11月末時点ものです。(リブライズ登録件数・登録冊数は2023年11月25日時点)

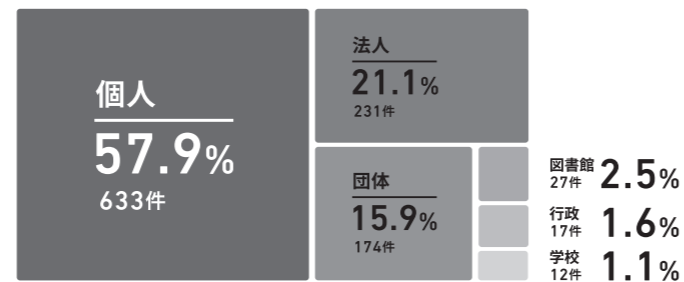
まちライブラリーの登録数と閉鎖数の推移

2011年に第1号の「ISまちライブラリー」が大阪市に誕生し、2013年には、まちライブラリー@大阪府立大学(現大阪公立大学。2023年3月閉館)が大学サテライトキャンパス内に開設されたことをきっかけに注目され始めました。その後、2015年に商業施設内にまちライブラリー@もりのみやキューズモール(大阪市)と立命館大学大阪いばらきキャンパス内にまちライブラリー@OIC(茨木市)がオープンしたことで認知が広がり、登録数は毎年100件を超える状況が続きました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり2020年は登録数が落ち込んだものの、翌年以降は80件を超え回復傾向です。閉鎖は全体の約15%で、大半は継続して活動を続けています。



まちライブラリーの運営者

運営者で最も多いのは個人で、約6割を占めています。次いで、企業やNPOの法人と、小規模な仲間や団体で約4割弱です。図書館、行政や学校など公的な機関も関わり、様々な運営者がいる点も特徴です。



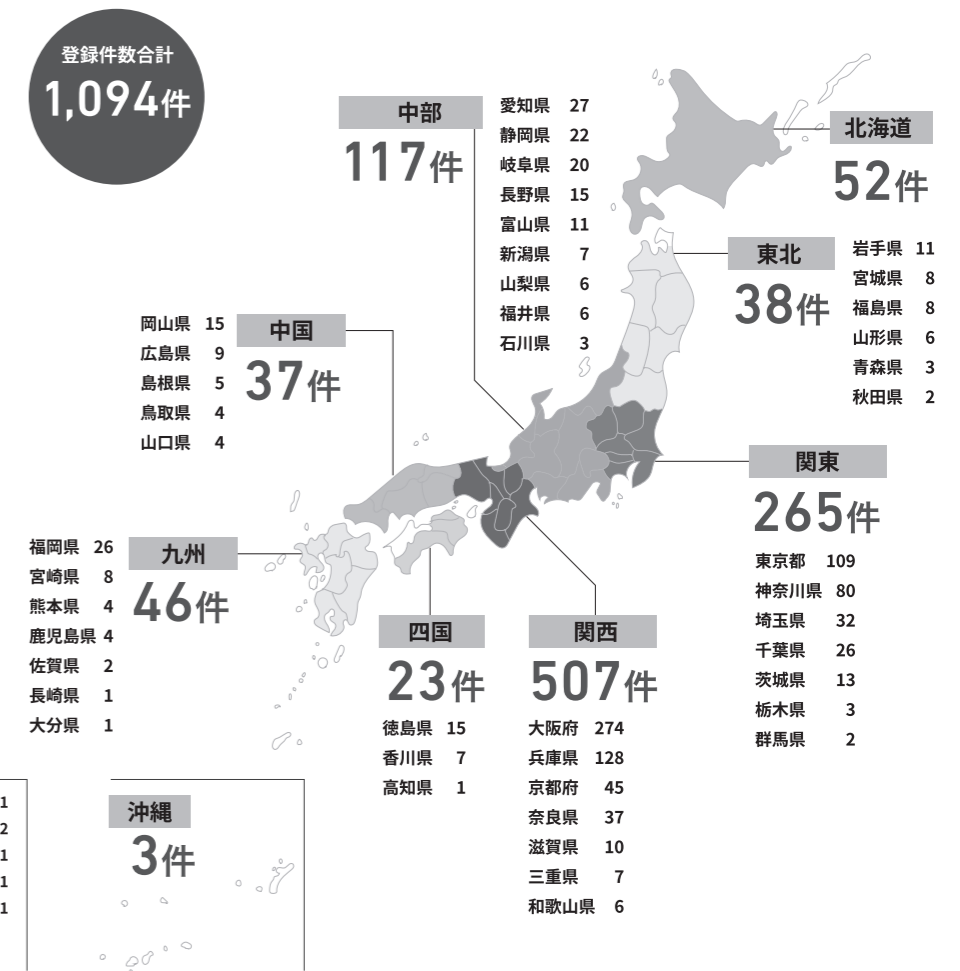
リブライズにおけるまちライブラリーの登録件数と登録冊数

「すべての本棚を図書館に」を掲げている外部の蔵書管理サイト「リブライズ」において、まちライブラリーが全体の登録数の約8割を占め、まちライブラリーが本を通じた交流を活発にしていることが伺えます。ただ、個人でまちライブラリーを運営しているオーナーの方はすべての蔵書登録をしていないこともあり、登録冊数はリブライズ全体の約3割にとどまっています。

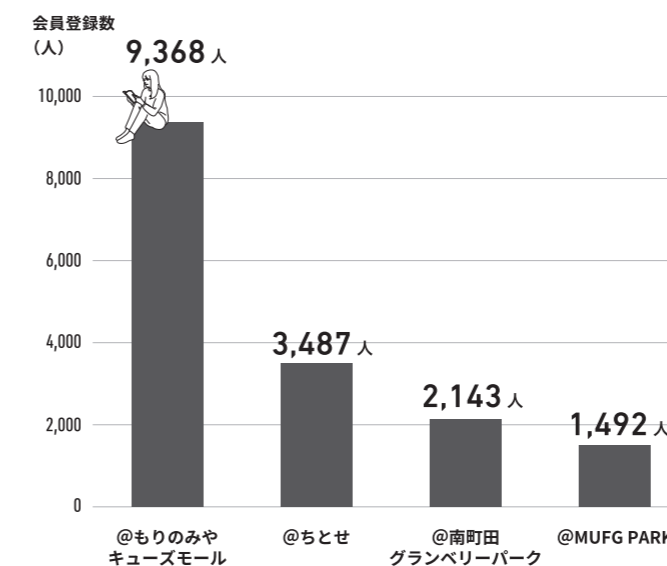


まちライブラリーの都道府県別登録数

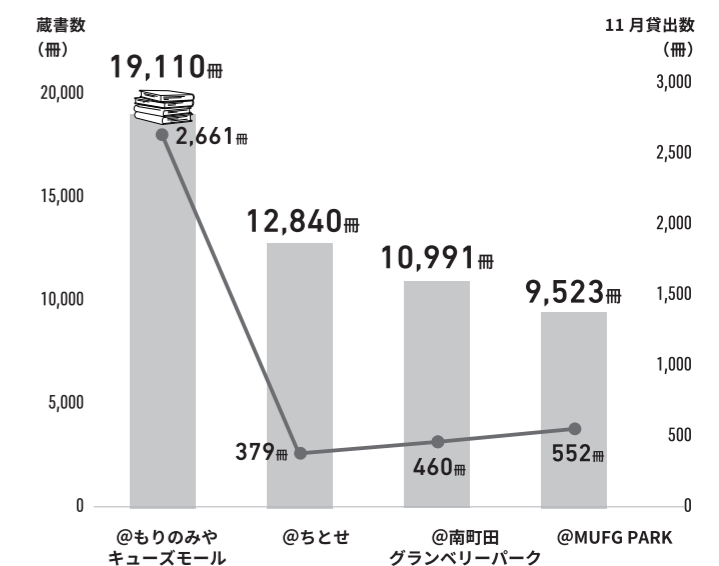
まちライブラリー第1号の「ISまちライブラリー」がある大阪府が群を抜いて多く、274件に上ります。周辺の兵庫県や京都府にも活動が広がったため、エリア別では関西が最多の507件で、続いて関東の265件となっています。都市部を中心に、愛媛県を除く全国各地に展開し、海外にも6件あります。



一般社団法人まちライブラリーが運営を担っている4館 会員数



一般社団法人まちライブラリーが運営を担っている4館 蔵書数と11月の貸出数



2023年11月末時点でのまちライブラリー@もりのみやキューズモール(大阪市)、まちライブラリー@ちとせ(北海道千歳市)、まちライブラリー@南町田グランベリーパーク(東京都町田市)、まちライブラリー@MUFG PARK(東京都西東京市)の会員数と蔵書数は開館期間も異なるため、単純に比較することはできませんが、地域のみなさんに活発に利用されています。特に、まちライブラリー@もりのみやキューズモールは会員数が9000人以上で年間来場者数が同区の公共図書館の来場者を上回るほどです。